

# 高齢化社会における孤独死保険

中林ゼミ

## <アウトライン>

### ①現在の問題

住宅環境を取り巻く新たなリスクがある中で大きな問題である孤独死の増加に注目した。

### ②孤独死とは

「自宅で誰にも看取られずに亡くなること。またその死が数日後に発見され自殺や犯罪性がないこと。」

### ③既存の保険商品の分析

既存保険商品の分析から、**老老・認認介護問題**に着目

### ④新保険商品の提案

老老・認認介護問題に着目した保険商品を4P分析を用いて提案。

## <研究意義>

今後少子高齢者社会が進展する中で孤独死はより大きな問題になると考えられる。

中でも、老老・認認介護問題に潜む孤独死に似たリスクは今後深刻な問題になり得るため、その問題に対応する新たな保険商品が必要である。

# ～将来、不妊で悩む人を減らすために～

## チーム名：風間ゼミ

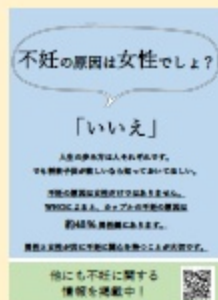
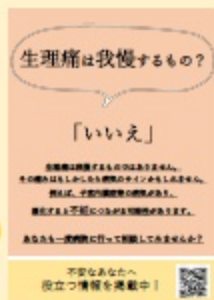
### ◎発表のアウトライン

1. 現状分析：不妊症の現状と学生の認知度の低さ
2. 課題：学生の不妊認知度向上への課題の提示
3. 提案：学生の不妊認知度・関心向上のための解決策  
(個室トイレ内の不妊啓発ポスターの掲示とサイト運営)
4. 効果検証：提案内容の効果検証

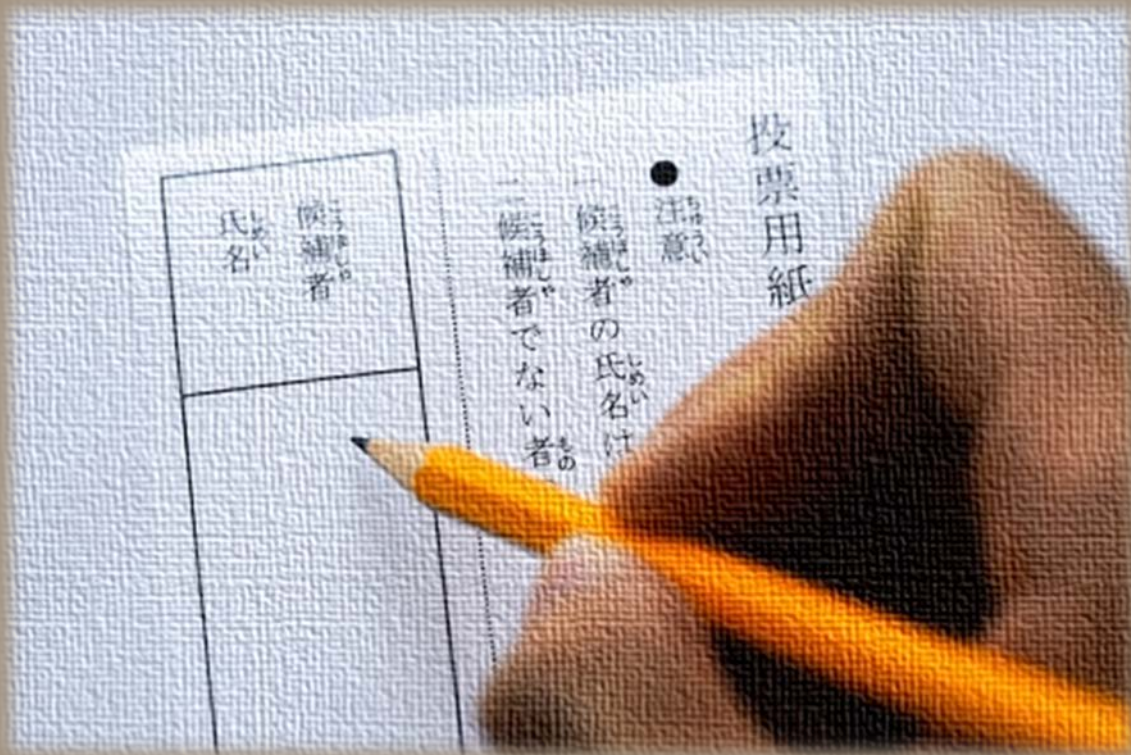
### ◎研究の意義

今日、不妊は誰にでも起こりうる問題である。そのため私たちは、学生に**不妊に関する正しい知識を提供し不妊を身近に感じさせ、主体的(情報収集や検診など)な行動を促す。**

(以下は作成したポスターと実際に大学の個室トイレ内に掲示した写真)



# 若者の投票率向上について



## 【アウトライン】

1. 現状と課題
2. 施策①大学での講義
3. 施策②選挙フェス

## 【背景】

高齢者に投票率が偏ることによって政治的影響力が高まり高齢者向けの政策が行われるシルバーデモクラシーが問題になっている。私たちの持続可能な将来を実現するためには若者の投票率を上げる必要があります。

## 【研究意義】

若者の投票率を上げてシルバーデモクラシーを解消し、若者の意見が政治に反映されるような状況を作るための戦略を示す。

# 聴覚障がい者と健聴者のコミュニケーションに関する 企業による CSR 活動の提案

出見世ゼミナールデフ班

## [アウトラインと意義]

現在日本の企業では、障害者雇用促進法によって一定の割合で障がい者の雇用が求められている。しかし、聴覚障がい者に関しては職場でコミュニケーションをとるのが困難なことから、単純作業の仕事が多くなることや退職するケースがある。

では、どのような活動を行えば聴覚障がい者と健聴者双方が理解を深め、コミュニケーション能力を向上させることができるのだろうか。本発表では企業の CSR 活動に絡めた持続的な提案を行い、聴覚障がい者・健聴者共に企業で活躍するための一助になることを狙いとしている。

## 課題発見

インタビュー・イベントから

聴覚障がい者と健聴者  
双方が壁を感じている

企業で働く聴覚障がい者

子供の頃からの  
健聴者との関わり

壁を感じなかった

## 考察

企業の CSR 活動として

聴覚障がい児に向けたコミュニケーション能力向上の  
ためのふれあいの場を提供する

聴覚障がい者の  
メリット

健聴者の  
メリット

## 事例検証

### <中外製薬>

- ① 地域の学校と連携
- ② 聴覚障がいの社員と連携

### <横河電機>

- ① 地域社会との連携
- ② 自社の施設や人材の活用

## 最終提案

地域社会  
との連携



企業の特徴  
を活かす

これらを活用し、企業が持続的な CSR 活動として聴覚障がい児と健聴者の  
コミュニケーションの場を提供すべきである。